

1月9日75回生修学旅行が始まりました。年が明けてから新型コロナウイルスの感染拡大が一気に進みましたが、このタイミングを外しては昨年同様延期



の連続となる可能性もあり、また、スキー場の方は全く感染もなく、以前ほど外国の方が来られていないこともあり、実施することにしました。迎えた当日は体調不良者もなく、参加予定の生徒全員が揃いました。6時30分に学校を出発し、7時30分に伊丹空港に到着。空港でのセキュリティーはかなり厳しく、出発時間ぎりぎりでの搭乗となりました。何とか無事に出発。久しぶりの飛行機に私自身も緊張しましたが、生徒たちも離陸の時には思わず声が出た感じで、修学旅行らしさを感じました。1時間45分で新千歳空港に到着。着陸の時から外を見ていましたが、北海道に来たという感じの雪の白さが一面に広がっていました。パ



スに乗り換え意気揚々と空港を出発しスキー場に向かいました。途中トイレ休憩をはさみ予定より随分と早くホテルに到着。生徒たちの行動も早く、とてもスムーズに進みました。ホテルに入るとすぐにウエア合わせと靴合わせです。自分の荷物を確認し、靴合わせとウエア合わせを同時進行。スキー靴、ボード用のシューズをはくのに慣れていない生徒は業者の方に手伝ってもらいながらはき方を教わり、準備が整った班からゲレンデに向かいました。日曜日だというのにゲレンデは程よい感じで、スキー客も少なく、練習にはもってこいでした。ペアリフトが新しいゴンドラに変わったりするなど2年前とは少し違った様相を感じました。各班に分かれて実

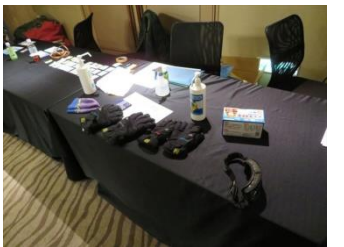


習開始。途中結構吹雪いてきましたが、ものともせずスキー班、ボード班ともに元気に実習をしていました。時折手を添えてもらいながら少しずつ感覚をつかんで初日としてはまずまずだったのではないのでしょうか。リフトやゴンドラにも乗り、少し傾斜のあるところからきっかけを作っての滑り出しでうまくコツをつかんでいたように見えました。



実習が終わるとホテル本部で最終チェックを受けて更衣。この時には昼御飯が早かったので「腹減ったあ」の声も聞こえました。少し体調を崩した生徒も出ましたが、長旅と実習の疲れも見せずにほとんどの生徒が1日目の実習を終えていました。その後全体でホテルからの注意を聞き、西村修学旅行委員長の挨拶、添乗員さん、看護師さんの紹介を終え、各部屋に荷物を運びいれま

した。その際ウエアなど荷物も多く、手袋などの落し物が多数出ました。その後は待望の食事です。入口で説明を受け、消毒、トングを持つ手にビニール手袋をはめ、buff形式で食べたいものを各自でとっていきます。体育科の生徒は、最後まで残ってしっかりと栄養補給を図っていました。ここでは黙食を徹底、食べていないときで話をするときはマスク着用にも協力してもらいました。本来なら話しながらの楽しい食事ですが、コロナの影響で、こういったことが生活様式として取り入れられ、少し窮屈な思いもします





が、現状を考えると仕方がないですね。みんな協力的でした。そして最後は、正副委員長と修学旅行委員の合同会議です。



冒頭、大橋主任から「楽しい思い出づくりのためにみんなの協力が必要だ。ルールや時間を守って自らが楽しい旅行にしていけるようにしよう。」という話があり、高木先生からは細かな注意と10日の日程確認が行われました。真剣な表情で、必死にメモを取る姿に大きな期待を持ちました。10日は1日実習です。ナイターまで予定している人もいます。怪我のないようにしっかり

休んで備えてほしいです。1日目が無事終了しました。

10日は、7時からの朝食に合わせて健康チェックカードを確認します。特に体調を崩す者もなく、昨日体調を崩しかけた生徒も大丈夫なようで、良いスタートが切れそうです。いつもと違う筋肉を使ったため筋肉痛を訴えてくる生徒はいましたが、実習には支障がなさそうでした。朝食の際には、さらに部屋のカードキーを本部の机に並べるなどどの部屋が来ているかを確認する工夫もされていました。そして開校式前にクラス写真を撮りました。今日



日はとても天気が良く、絶好のコンディションです。写真もみんな元気で取り終え開校式が始まりました。私の挨拶、スキー学校代表の挨拶、生徒代表は7組中村君で元気のよい挨拶をしてくれまし

た。実習が始まるころには青空が広がり、ホテルも綺麗に見えますし、ここでは紹介できないのですが、羊蹄山(蝦夷富士)もはつきりと美しい姿を現していました。

実習が開始されるとインストラクターと元気よく出発。昨日の復習を兼ねて柔軟や動きのチェック。ボード班もこけるのを恐れずチャレンジしていました。昼食会場ではインストラクターからの激励を受け、午後からの実習に向かいました。ボード班はリフトの前でリフトの乗り方などの説明を受け、降りるときの一瞬の怖さと闘いながら何度も同じ滑りを確認していました。高校生の上



達の速さには驚かされます。この日の実習の終わりかけの様子を見ているとほとんどの生徒が恐ろしく上達していて、良いフォームで滑っていました。こうなると楽しくなってくるのか、午後の実習の後はフリー滑走の時間があり、班をこえての交流をしながら滑走が楽しめます。そこには200名を超える生徒が参加。さらにナイター滑走に出かける者もあり、午前1時間半、午後2時間半、フリー滑走1時間、ナイター滑走2時間とすべてに参加した生徒は7時間近く滑っていたことになります。恐るべき体力。明日の午前中の実習で終わりになりますが、とても良い経験になったのではないのでしょうか。最終日もけがなく楽しい実習で終われるようしっかりと休んでほしいと思いました。そして夕食時には、この修学旅行期間中に誕生日を迎えた2組後藤君と6組浦崎君がステージに呼ばれホテルからホールケーキが、東武トップツアーから記念品が贈られました。それぞれのコメントには「真面目にやっていたのに怒られるのかと・・・」という感想があ



崎君がステージに呼ばれホテルからホールケーキが、東武トップツアーから記念品が贈られました。それぞれのコメントには「真面目にやっていたのに怒られるのかと・・・」という感想があ



り、場内を沸かせました。そして代表者会議。明日は宿舎の移動があるため、荷物の運び出しや部屋の点検など細かな話がありましたが、しっかりと聞いてくれていました。先生方でも何度も打ち合わせを重ねてきました。3日目以降の動きが修学旅行の締めとしては重要になってきますので、今一度気を引き締め修学旅行の成功に向けての協力依頼をしていました。ちなみに



今回実習に参加できなかった見学者のコースも充実しており、1日目はグレンデ散策や施設見学、2日目は午前が羊毛アート(羊毛を使ってのフレームづくり:写真左)、午後がアイス&生キャラメル製作でした。最終日はグラスアート(コップづくり)となっています。3日目午後からの観光は班別学習となりクラスに合流することになっています。

11日修学旅行3日目です。この日も特に体調を崩す生徒もなく、皆元気に朝食会場にやってきました。疲れからか寝坊した生徒は数名いたようですが今日も良いスタートが切れそうです。食事の際には各クラスから代表者が出て、「ごちそうさま」をします。4組代表者が今日はその役を務めました。本日のタイムテーブルはスキー実習のまとめが午前中にあり、午後からは小樽観光とホテル移動があるので、朝は荷物の整理に追われます。それでも生徒たちは決められた時間に部屋の点検を終え、最後の実習へと向かいました。各班ともにリフトやゴンドラを使って勾配のある地点での



実習に臨んでいました。午前中は天気も良く、まとめとしては良い環境でした。最後は並んで滑降してくるなど上達ぶりがうかがえました。そして閉校式。スキー学校代表の方からも上達ぶりにおほめの言葉をいただき、3組山本君がインストラクターの先生方に感謝の意を伝え、無事実習終了。戻ってきてからはクラスごとに更衣と食事をし、予定の時刻に小樽に向けて出発



できました。小樽では班別研修で、有名なお菓子、グラス、オルゴールなどの店舗が立ち並ぶ通りを事前に計画してきた順に回っていたようで、出発時間のぎりぎりまで楽しんだようです。日が暮れてくると一気に寒さも増しましたが、散策中は雨や雪も降らず良い買い物ができるのではないのでしょうか。そこから夕食会場のアサヒビール園に向けて出発。このころになると日も沈み、雪も本降りになってきました。札幌市内の渋滞もあり予定より15分ほど遅れて到着。検温をして、中に入るとジンギスカン料理が用意されており、久しぶりにジンギスカン用の鉄板を囲んでの食事となりました。黙

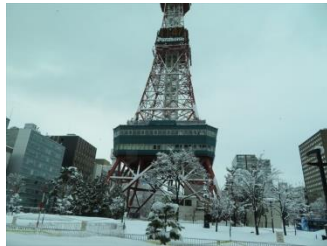


食を心掛けてはいましたが、久しぶりの焼き肉形式の食事に著も進み本当によく食べていました。また、修学旅行委員が企画したクイズ形式のアンケートでは2組が最も正答率が良かったようで

優勝し、表彰してもらっていました。食事が終了すると宿泊先のホテルに移動。バスの中で熟睡して、食事で英気を養えたからか体調不良者もなく、3日目を終了。大雪に対する警戒感が強まり、最終日の日程がこなせるかどうか分からない状況になってきたので、深夜まで職員で打ち合わせをし、旅行業者の情報を頼りに朝6時に判断をすることにしました。

12日6時より職員で打ち合わせを開始、高速道路も通行止めとなっていることから電車での移動を選択。警報が出ていることもあって札幌市内の散策は難しいとのことからまずは空港に行くことを最優先に考えることを朝食の際に連絡することになりましたが、その内容を決めた直後にJRが午前中の運休を決定。空港に向かう手段がバスに頼るしかなくなりました。朝食の段階ではそのバスがいつ来るかが決められず、部屋で待機の指示。男子はすでに託送荷物をまとめロビーに降ろしていたのですが、その荷物を積み込むトラックが3時間遅れで到着。交通事情が悪いことが予想され、生徒には詳細は話せていませんでした。

たが、なかなか連絡事項をまとめきれずにいました。そんな中ではありましたが、外は吹雪いていた雪もやみ、日も差すようになってきたので部屋でじっとしているのもどうかと思い、また昼食も自分で調達しなければならないことから、ホテルからテレビ塔まで10数分ということでしたので、クラス写真を撮りながら、1時間ほど昼食やお土産を買う時間をとることにしました。その間にバス



が11時30分に来ることが決まりホテルを出発し空港に向かうことができるようになりました。高速道路も途中から開通。2時間ほどでは空港に到着できることがわかり、胸をなでおろしました。ホテル

周辺だけを見ていたら道路事情が悪いことが想像できなかったのですが、移動中の窓からの景色は除雪で道路が狭まり通行しにくくなっていたり、路面の凍結があったりと交通事情が悪いことがここでようやく理解できました。雪道に慣れたバスの運転手はそんなこともお構いなしに、私たちのために空港にできるだけ早く運ぼうと運転してくれていました。空港に到着して飛行機の発着状況を見ていると欠航が圧倒的に多く、飛行機が飛ぶのかどうかということが心配されましたが、飛ぶことを想定して動かし



かありません。バスを降りて集合場所を確認。その際に4日間お世話になった現地の看護師の方々にお礼を述べ一度解散。お土産を買ったり、軽食をとったりする時間をとりました。再度集合した時には、

持ちきれないほどのお土産を手にしており、あとは飛行機が飛ぶだけです。私たちの乗る飛行機は羽田空港から予定時間に到着しており、あとは天候だけです。16時に判断された内容は、一応関西には向かうが、時間によっては関西国際空港に向かうかもわからないという条件付きでした。とりあえず飛ぶことが決定。大阪方面の飛行機は、私たちが乗る便以外は欠航だったので、準備をさせていただいた航空会社に感謝感謝です(修学旅行団ということもあったようですが...)。離陸直後の風の強さから揺れがありましたが、それ以外は快適な時間でした。伊丹空港が近づくとライトアップされた大阪城が綺麗に見え、帰ってきたなと思いました。到着後はモノレールの下で解団式。私からは、「タイトな日程を頑張りきり、体調不良者を出さず全員で帰って来ることができたことで素晴らしい修学旅行だった。特に最終日は楽しみにしていた札幌観光はできなかったけど、その時できる事を最大限にできたと思う。そして前後の便が欠航となった飛行機は、それを調整してくれた人がいる。そういった方々も含め、学年の先生方、旅行業者の方々への感謝の気持ちを忘れず、その感謝の気持ちはこれからの頑張りで見せてほしい。」という話をしました。旅行業者からも「みんながお土産を両手いっぱいに入れてくる姿を見るのが嬉しい。」という話を聞くことができました。最後は生徒代表3組石井さんの挨拶です。感謝の気持ちのこもった挨拶に充実感が溢れていました。その後クラスごとにバスに乗り、学校に戻ってきました。学校では保護者の迎いの車を職員が整理してくれており、バスから降りた生徒達は、その保護者の車に向かい、「無事に帰ってくることができた。良かった。」と思いました。修学旅行中も感染拡大は続いていましたし、万が一北海道で熱でも出て帰って来ることができない生徒がいたらどうすればよいのかなど正直なところ、心配なことの方が多かったです。加えて大雪の情報で、最終日はなかなか大変でしたが、元気に帰ってきた生徒を見ているとそうやって心配したことも忘れ「修学旅行に行けて良かった。」と思いました。保護者の方々も一安心されたのではないのでしょうか。不安もあったかと思いますが、生徒達を送り出していただきありがとうございました。大橋主任はじめ2年生の学年団が、「自分たちで作り上げる修学旅行に」と言い続けてきたことで、パワフルに日程を進めて行けたのではないかと思います。4日間で75回生の成長を随分と感じることができました。その成長を次は進路実現、部活動での集大成につながる事が今回関わっていただいた方々への感謝の気持ちを表すことになります。目標をしっかりと持って頑張ってください。2年の学年団の先生方本当にお疲れ様でした。

その間に11日に3学期始業式があり、1.3年生は放送による3学期のスタートを迎えました。共通テストや私学入試に臨む3年生の皆さんは、最後のもうひと踏ん張りです。体調を整え、目標を達成してください。すでに進路が決まっている皆さんは次のステージに向けて何が必要かを考え準備を進めましょう。1.2年生の皆さんは新入生を迎える準備と自分たちの次のステージへの挑戦を進めてください。新規感染者の急増に伴い、今一度緊張感を高め、感染防止対策をしっかりとしていきましょう。よろしくお祈りします。